

令和6年度

第1回 学校評価アンケート 集計結果



長門市立神田小学校

令和6年度 第1回学校評価【全体比較による分析】

	項 目	児童	保護者	地域	教職員	平均
チャレンジ目標	「気持ちのよいあいさつ！めざせレベル5！」	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	「時間を守ろう！開始や集合！」	100.0	71.4	80.0	100.0	87.9
	「やさしくかわろう！言葉や行動！」	85.7	100.0	100.0	100.0	96.4
学校生活	めざす学校像について	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	学習内容の理解	100.0	71.4	50.0	67.0	72.1
	主体的な学び	100.0	71.4	70.0	100.0	85.4
	自分の考えをもち、伝えている	85.7	100.0	70.0	100.0	88.9
	先生や友だちの話をよく聞いている	100.0	100.0	90.0	100.0	97.5
	友だちと仲良くしている	100.0	100.0	90.0	100.0	97.5
	いじめやトラブルの未然防止、早期対応	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	授業や学校行事等に地域の力を生かしながら教育活動を進めている	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
家庭生活	家庭学習への取組	85.7	100.0	—	67.0	84.2
	自主学習への取組	100.0	57.1	—	66.0	74.4
	体力づくりへの取組	100.0	85.8	—	100.0	95.3
	交通安全（道路歩行、自転車の乗り方）	100.0	100.0	90.0	100.0	97.5
	家庭での挨拶	100.0	100.0	—	—	100.0
	地域行事への参加	100.0	100.0	60.0	—	86.7
	メディアに関わる約束	42.9	71.4	—	—	57.2

※肯定的評価の割合（「わからない」も割合に含めて算出しています）

全体分析と今後の取組について

【チャレンジ目標について】

① 気持ちのよいあいさつ（※日置みずぐ学園重点取組事項）

・児童、保護者、地域、教職員と評価者すべてが100%の肯定的評価をする結果が昨年度より続いている。神田小学校の児童はよくあいさつをするという伝統が引き継がれていると言える。あいさつレベル5（相手の名前を言ってあいさつをする）は神田小ならではの取組でもあり、名前の分かる方については名前を言ってあいさつすることに今後も取り組むようにしていく。朝のあいさつの声が小さいことがあるので、自分も相手も気持ちのよくなるあいさつを心掛けるようにする。

② 「時間を守ろう!開始や集合!」

・肯定率は高いが、児童と教職員による評価では「よくあてはまる」の割合は高くはない。だいたい守れているが、昨年度に比べると少し集合が遅くなっていると感じることもある。時間を守るためには見通しをもつことや協力すること、優先順位をつけることなども必要となる。2回目の評価では、「よくあてはまる」の割合が高くなるように、時間を守るためにはどんなことを意識したらよいか考えながら行動できるようにしていく。あわせて、教職員も時間に対する意識を高めていく。

③ 「やさしくかかわろう!言葉や行動!」

・②と③は昨年度に児童が日ごろの自分たちの学校生活を振り返って、よりよい学校生活にしていくために考えた目標である。学校を安心して気持ちよく過ごせる場にするためには、友だち同士のかかわり方は大切である。児童の肯定的評価は100%ではないが、自分の1学期の言動をよく振り返っているとも考えられる。日ごろはできていても、感情が高まったときについつい乱暴な言動になってしまうこともある。やさしい言葉や行動とはどんなものなのか具体的な姿を今一度児童で考えさせたい。

【学校生活について】

① めざす学校像について

・めざす学校像については、評価者全員が肯定的評価であった。学校、保護者、地域、教職員にとってそれぞれによさのある学校となっている。児童にとって、「行きたい学校」となるためには、まずは、学校が安全、安心な環境であることが大切である。そして、児童一人一人が活躍し、成長できる場となることが求められる。学校の教育活動をとおして多くの人とかかわり、そのかかわる人にとっても充実感のある活動であったなら、お互いによ

さがあるといえる。今後も目指す学校像を意識した取組を行っていきたい。

② 学習内容の理解

・概ね学習内容については理解していると考えられる。ただ、児童と保護者の肯定的評価に少し差があることから、学校ではできていても、宿題等を家庭で行う時に、習ったことを忘れてしまっていてできないことがあると考えられる。そこに気づくことも、もちろん宿題の役割としてあると言える。学んだことを繰り返し行いながら定着を図り、課題については家庭とも連携し、その改善を図っていくようにする。

・朝の学習では、全学年で継続して「やまぐちっ子学習プリント」などの練習問題に取り組み、間違えた問題は必ず解き直すようにしている。担任だけでなく管理職も補助にあたり、引き続き学習内容の定着を図る。

③ 主体的な学習

・これまではガイド学習についての評価を行っていたが、今年度は、三つの学年が一人学級のため、自分で見通しをもちながら学習を進めているかという「主体的な学習」についてアンケートを行った。複式の授業では、二つの学年が同時に学習を行うので、自分で学習を進めていく場面が出てくる。その時に、どのように学習を進めていくかが分かっていないと、教員を待つようになる。自分で考えながら学習を進め「次、何をしたらよいですか?」という質問が出ないような授業づくりを行っていくことが必要である。

④ 自分の考えを表現している

・この項目については、児童には「話し合いのときに意見を言っているか」で質問している。保護者や地域の方には、授業参観の場合一人学年では「話し合い」が見られないこともあるので「自分の考えをもち、積極的に伝えようとしているか」で質問している。多くの児童や教員が「だいたいあてはまる」を選択していることから、できてはいるがまだ理想とする姿ではないことが伺える。授業だけではなく、学校行事やフリートークなど教育活動全体を通して、表現する力を伸ばそうと取り組んでいる。まずは、自分の考えをもつこと、そしてそれを相手に分かるように伝えること、また、聞くときは、何が言いたいかを考えながら聞くことなど、話す・聞く力を今後も伸ばしていくようにする。

⑤ 先生や友だちの話をよく聞いている

・肯定的評価については昨年度に続き大変高い評価である。ただ、「よくあてはまる」を選んだ児童の割合は昨年度よりも減っていて、「聞き方あいうえお」を実践できている児童は多くはないように感じられる。しっかりと聞くことは、物事を確実に رفتり、自分の考えを深めたりしていくうえで大切である。また、話し合うためにはこの聞く力が必要となる。「聞き方」に

ついて「神田小の学び」を生かし、できているときに価値づけながら継続して指導を行っていく。

⑥ 友だちと仲良くしている

・今回も肯定的評価が高かった。全校児童でのかかわりが多く、お互いのことをよく知っているという良さがある。ときには、言い合いになったりすることもあるがそれも成長するための一つの機会と捉えたい。チャレンジ目標にあるように、お互いに気持ちよく過ごすために、言葉や行動に配慮できるようにしていく。何よりもそういった学校を自分たちでつくっていくという思いを育てたい。

⑦ いじめやトラブルの未然防止、早期対応

・この項目は、今年度新たに追加したものである。いじめについては、どの子にもどの学校にも起こり得るものという認識をもつ必要がある。今回のアンケートにおいては全児童が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答している。今後も、だれもが安心して学ぶことができる明るく楽しい神田小学校であるために、いじめにかかわる問題を自分のこととして考え、自ら行動できる集団づくりに努める。

⑧ 授業や学校行事等に地域の力を生かしながら教育活動を進めている (※日置みずぎ学園重点取組事項)

・この項目についても、昨年度の2回目のアンケートに引き続き、全評価者の肯定的評価が100%であった。しかも「よくあてはまる」の割合が8割を超えている。今年度から運動会を春開催としたので、1学期に運動会と遠泳大会の二つの大きな行事を行うこととなった。どちらも、地域の方にご支援をいただき、充実した行事とすることができた。2学期には、ふれあいタイムを漁村センターで行う予定にしている。また、授業でもゲストティーチャーとして参加していただけないかと考えている。これまで以上に多くの方とつながりのある教育活動となるように工夫していく。

【家庭生活について】

① 家庭学習への取組

・児童、教職員共に昨年度より肯定率が下がっている。宿題について、きちんと取り組んでいる児童とそうでない児童に差があると思われる。小学生のうちから家庭で学習する習慣をつけておきたい。「学年×10分+10分」を基本としているがこれを低学年のうちから続けていけば、中学生になっても家庭で学習することに大きく難しさを感じることはない。また、宿題で、定着を図ったり、課題に気が付いたりすることができる。宿題の意味を今一度児童と共有し、やらされるものではなく、前向きに取り組めるようにしていく。

② 自主学習への取組

・自主学習への取組については、昨年度から徐々に肯定的評価が高くなってきていたが、今回は少し下がっている。特に、保護者、教職員で下がっ

ており、児童の評価と少し差がある。自主学習には、教科に関することや興味のあることなど、自分で考えながら取り組むようにしている。一番は自分のためになるような学習を行うことだが、何をしたらよいか分からなかったり、時間がなかったりといった理由で取り組めないことがある。自主学習が自分の学びに結びつくように今後もよい取組を紹介したり、価値付けしたりして、自主学習の充実を図っていく。

③ 体力づくりへの取組

・今年度は、児童、保護者、教職員へ体力づくりへの取組についてアンケートを行った。本校の重点取組事項に体力向上も入れている。昨年度は柔軟性と投力に力を入れて取り組んだおかげで、その項目は大変伸びた。今年度は、投力と持久力に力を入れるようにしている。遠泳大会では、自分の目標の距離を全員が完泳した。持久力の面で伸びが見られた1学期であった。投力については、遊びに取り入れるなどして力を伸ばしていく。

④ 交通安全(道路歩行、自転車の乗り方)

・1学期に長門警察署の稲田さん、黄波戸駐在所の白井さんにお越しいただき、交通安全教室を行った。人数が少ないので、自転車の実技指導をしっかりと行うことができた。低学年については横断歩道の渡り方の練習を行った。「これくらい大丈夫だろう。」という安易な判断が事故につながってしまうことがある。しっかりと安全確認をしながら、今後も事故なく生活できるようにKYT学習(危険予測学習等)を取り入れて、自分の命、他の人の命を大切にできるようにしていく。

⑤ 家庭でのあいさつ

・家庭でのあいさつについては毎回肯定的評価が高い。しかも、「よくあてはまる」の回答率が高い項目である。あいさつを日置みずぎ学園の重点取組事項として位置付けているが、家庭であいさつがしっかりできているからこそ、学校でもよくあいさつができていると思われる。あいさつが気持ちよくできるのは、よりよい人間関係づくりへとつながっていくし、あいさつをすることで自分の気持ちもよい方向へ変化していくこともある。あいさつがよくできていることを学校、家庭、地域で価値づけていくようにする。

⑥ 地域行事への参加

・地域行事への参加については、今回質問の内容を少し変えてみた。これまで「地域の行事に参加しているか」ということでアンケートをしていたが、地域の捉え方が難しかったので、「長門市や地域の行事、催し事」への参加について尋ねてみた。長門市の団体や施設からスポーツや文化に関する案内が多く来ている。日置地域はもちろん、長門市全域からの案内についてぜひ興味あるものには積極的に参加をしてほしい。学校でも、案内ができるものについては紹介をしていく。

⑦ メディアに関わる約束

・児童による肯定的評価が一番低い項目となった。これまでのアンケートでは、児童のとらえ方と保護者のとらえ方に差が見られていたが、児童が自分のメディアへのかかわり方を客観的に捉えられるようになった結果と

もいえる。メディアとのかかわり方は、日置みすゞ学園でも話題となっており、重点取組事項の一つとなっている。小学校段階では家庭で使用時間等の確認をしないと子どもだけで判断しながらかかわっていくのには難しさがある。日本小児科医会によると、すべてのメディアに触れる時間は「全部で 1 日 2 時間まで」を目安とするとよいと提言されている。学校で、心身の健康面や発達、学力などとの関係について児童への指導や家庭への啓発を行い、学校、家庭で連携してメディアとのかかわりがよりよいものとなるようにしていく。

自由記述より

【保護者・学校運営協議会委員】

- ・これからも子どもたちにいろいろな体験をさせてほしい。
- ・先生や目上の人に対する言葉遣いを少し考えられたらコミュニケーションがもっと良くなると思う。
- ・運動会の春開催はとても良かったと思う。